

大学図書館における 教育支援の取り組みについて

—短期大学図書館の現状と試み—

加盟短期大学図書館 発表館
神戸女子短期大学図書館

短期大学図書館の現状



兵庫県大学図書館協議会加盟館である短大図書館



産業技術短期大学



東洋食品工業短期大学



姫路日ノ本短期大学



近畿大学豊岡短期大学



頌栄短期大学



湊川短期大学



聖和短期大学



神戸女子短期大学

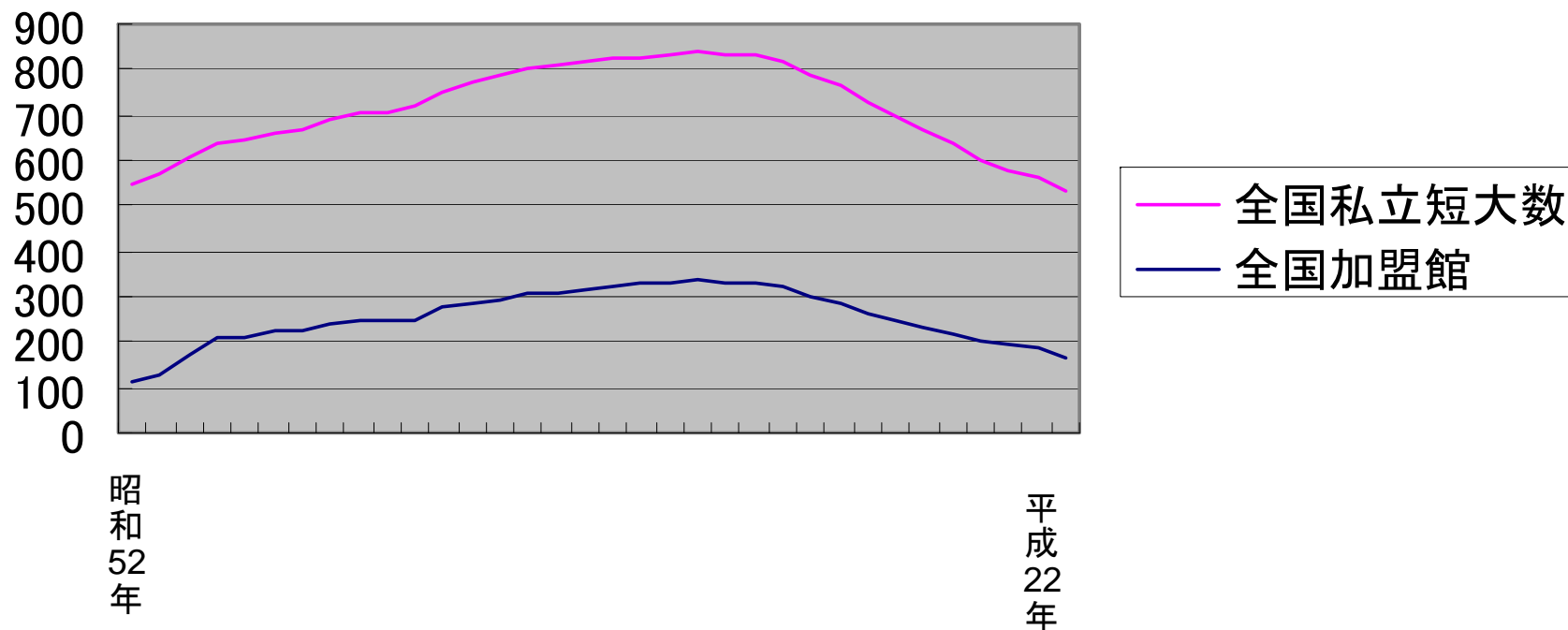
2011年度現在加盟館
・8館

阪神地区6館

西播地区1館

但馬丹波地区1館

私立短期大学図書館協議会加盟館会勢



短期大学の廃校及び大学や学部化により加盟館が激減



体制維持が困難な状況が顕現化

予算縮小が生み出す図書館での負のスパイラル

利用者サービス向上を阻む障害

- ◇ 図書館の専任職員の削減 → 激増する一人司書(非正規雇用の場合も)
- ◇ 業務のシステム化が停滞 → 既存の業務フローの効率化が阻害される

図書館の受入・配架・貸出・展示・蔵書点検・遡及など業務がオーバーフロー

- ◇ 交代要員がない → 図書館を離れることが困難

会議など公務で離れる時は一時閉館 (トイレの時は学生に頼むことも)



協議会や研修会・セミナー等で出張する場合は

- ◆ 臨時休館とする
- ◆ 他部署の職員に頼む



積極的に参加することが困難



役員を引き受ける余力がない



役員を機に退会する館が多く、会勢が弱体化

短期大学図書館の役割

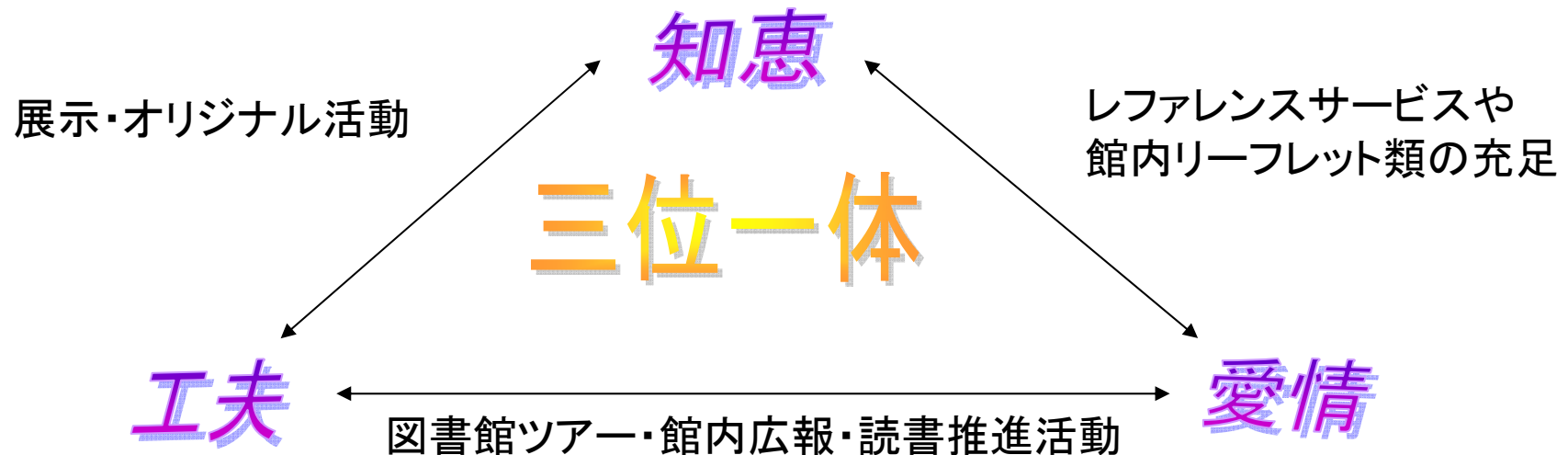
- ・ 社会人になるために必要な教養教育（社会人基礎力）
- ・ 即戦力を育成するための基礎知識や技術に関する情報提供

人間力形成に不可欠な 知層の育成

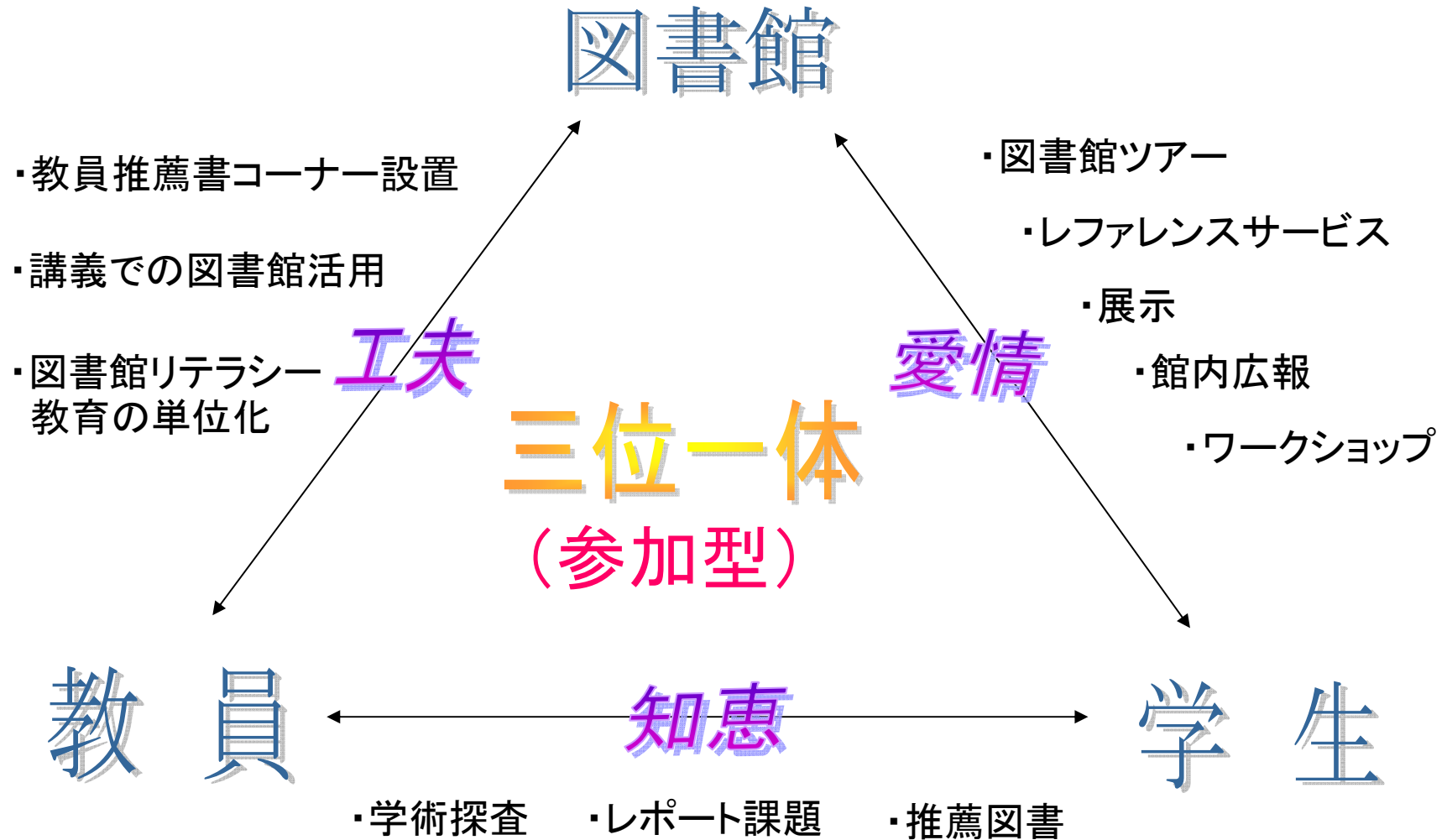
◇悩みの種の公式

利用者サービス向上 < 小規模・縮小予算・人員削減

◇解決法＝できることを考え増やしていく

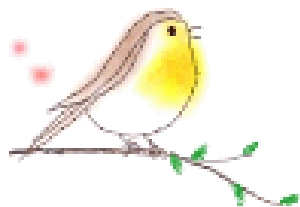


支援強化を行うには



短期大学図書館の教育支援の現状

～アンケート調査から～



アンケート調査項目

1、リテラシー教育について

行っている (・単独 ・教員連携)(・単位化 ・非単位化)

・活動内容について

行っていない

・理由

2、その他の教育支援活動について

行っている (・単独 ・教員連携)(・単位化 ・非単位化)

・活動内容について

行っていない

・理由

3、展示・館内掲示・利用者向上のための読書マラソンやサポーターなど、図書館独自で工夫している活動について自由にご記入ください。

4、その他、短期大学図書館としての悩み・問題・課題・質問などがありましたらご記入ください。

アンケート調査結果

1、リテラシー教育について

行っている (・単独 ・教員連携)(・単位化 ・非単位化)
・活動内容について

行っていない
・理由

リテラシー教育について

行っている				行っていない
6				2
単独		教員連携		
単位化	非単位化	単位化	非単位化	
—	2	4	—	

「行っている」と回答した館の活動内容

1. 教員連携・単位化(既存科目の活用)

◇ ICT基礎講座の授業内で実施

1回生 前期 必修科目(2単位) 1/15

前半に情報リテラシーの内容を盛り込んで行っている。

◇ 教養演習の授業内で実施

1回生 前期 必修科目(2単位) 1/15

1コマ
図書館利用方法、図書・雑誌・インターネット等の情報源の説明と
図書館資料として参考資料を使用して演習を行う。

◇ 講義のテーマ課題を活用

各種の講義 テーマ課題に則したレポート作成のリテラシー教育
情報リテラシー・蔵書検索による調べ学習。司書はレファレンスサービス

◇ OPAC・CiNii活用及び文献検索等のガイダンス

短期大学及び同キャンパス内の学部と連携し、要望に合わせて実施。
既存の単位化科目の1コマを活用。

事前に教員リクエストを受けオーダーメイドすることでニーズ対応。
検索演習の他、著作権説明や参考文献の書き方や引用の仕方まで
図書館や学術情報をめぐる様々な対応を行っている。

2. 単独開催・非単位化

◇ 希望者を対象に情報リテラシー教育

2回生 卒業研究作成者向け

文献検索や文献の取寄せについて説明する。

「行っていない」主な理由

◇ 一部の学科にリテラシー教育のカリキュラムがある。

◇ 現在検討中

2、その他の教育支援活動について

行っている (・単独 ・教員連携)(・単位化 ・非単位化)
 ・活動内容について

行っていない
 ・理由

その他教育支援について

行っている				行っていない
6				2
単独		教員連携		/
単位化	非単位化	単位化	非単位化	
—	1	3	2	

「行っている」と回答した館の活動内容

1. 教員連携・単位化(既存科目の活用)

◇ 国語基礎 I・II の授業内で実施

1回生 前期・後期 一般教養 選択科目(2単位) 各1/15

第一回目講義は図書館ガイダンスで、授業と図書館の関係について学ぶ。
前期－図書館ツアー 後期－レポート作成のための図書館利用

◇ 専門基礎 I の授業内で実施

1回生 前期 選択必修科目(2単位) 1/15

担当教員同席のもと、図書館で司書が文献検索の説明を行ない、実際に実習を行う。

◇ 講義の課題を活用

図書館で資料を使って調べる課題が出される。

司書は資料の案内や調べ方を教えてサポートを行う

◇ 講義内容に合わせて多面的対応

実技系・・・プランニングに必要な資料集

実習・演習系・・・図書館所蔵の絵本・紙芝居・エプロンシアター等資料を
実際に使用して授業を展開

キャリアデザイン・・・日刊・月刊誌の資料を活用し、就職や社会人として
必要情報をタイムリーに収集する能力養成に活用

2. オリエンテーション実施

入学式当日に図書館の利用方法についてオリエンテーションを開催。
実施することでレポート作成・試験準備がスムーズに行われている。

「行っていない」主な理由

◇ 人間的な面から業務を拡大する余裕が持てない

3、展示・館内掲示・利用者向上のための読書マラソンやサポーターなど、図書館独自で工夫している活動について自由にご記入ください。

◇ 編入学支援

編入学試験に特化した数学・物理・英語の演習資料を充実し、まとめて配架

◇ 就職支援

面接対策・・・面接対策用に「ことば」「国語力」資料をまとめて展示
「仕事への理解」・・・学科に関連した「仕事」の関係資料を別展示

◇ 実習支援

「実習(教育・施設)のために役立つ本」をリスト化し、実習担当者から配布
貸出冊数(一ヶ月前から無制限)や返却日(終了5日以内)とする。

◇ 読書マラソン

スタンプカード・感想文を提出し、記念品や表彰が行われる。

◇ 無償譲渡

保存期間終了雑誌の無償譲渡。実習や授業で活用できるものが人気

◇ 川柳大賞・口語短歌大賞

学生・教職員を対象として実施。応募作品を展示し一般審査で入賞を決定。来館者召致とことばの感性を養うことを目的としている。

◇視聴覚資料用大型画面モニターの導入

文字離れの解消法として、歴史物語や童話アニメーション・名画の視聴を可能にし、関連書籍へ興味を移行させることが目的

◇大学の特質を生かした配置

入口近くに絵本を配置することで利用者の利便性を図る。学生参加で新しいレイアウトを考えるなど、利用向上を目的に配置作業を行う。

◇セルフ貸出返却システム導入

一人司書によるサービス低下防止のため導入。

創設者名のついた記念図書館であることから、関連著書を多く収集し、大学特質に特化した食品関連本を多く所蔵している。

◇展示コーナーの充実

新刊紹介・しかけ絵本・季節感のあるデコレーション展示を実施。

ニュースやタイムリーな話題を取り上げ、ミニ展示コーナーを設置。

◇館内広報の工夫

掲示板やブラウジングコーナーなどの空間も利用する

◇「図書館でできる就活ワークショップ」を開催

担任教員と連携・・・図書館の就職支援実務経験職員により、就活に関する

図書館活用を多面的な方法で提示し、参加型で問題解決を行っていく。

就職活動をしていない学生や就職が決まらない学生の出前ワーク実施。

4、その他、短期大学図書館としての悩み・問題・課題・質問などがありましたら
ご記入ください。

◇督促業務・・・期限を守らない学生が多い。

◇ICT化の促進・・・予算等の理由で実現できていない。

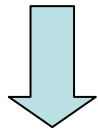
◇人事・予算面の問題・・・縮小傾向。「大学設置基準」に規程があるため
図書館はなくせないが最小限で運営という状況。
購入できる資料数が絶対的に少ない。
新規業務を行う余裕がない。

◇就業年限・・・短大は就業年限が2年のため、利用者サービス向上方法が有料に
なると、希望が叶えられた頃には卒業を迎えてしまう。

図書館で行うリテラシー教育としてのベーシックな支援活動

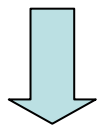
・リテラシー「literacy」が本来持つ意味

識字力ー読み書き能力。様々な材料から必要な情報を引き出し、活用する能力。



メディアやIT産業の発達により情報やツールが氾濫

現在の問題点ーゆとり教育に代表される知識や教養の低下
自発的活動が緩慢
対話力や対人能力の低下



解決するには？

発想の転換 “短期大学図書館の弱みを最大に活かす！”

予算とマンパワーが小さい = 手づくりの支援が多い (愛情)

教員・学生との距離が短い = ニーズの収集・協働の可能性が高い (知恵・工夫)

身の丈にあった教育支援を継続して考える



ご清聴ありがとうございました。

